

第 26 回国際コミュニケーション・フォーラム開催要領

開催月日	平成 21 年 11 月 13 日（金）13：00～17：40
会 場	関西大学東京センター （〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー9 階）
プログラム	テーマ「AR 技術が拓くモバイルコミュニケーション」 13：00～13：10 会長あいさつ 13：10～13：55 基調講演Ⅰ 「セカイカメラを使った京都市での観光情報提供実験」 吉井英樹（ソフトバンクテレコム ネットワーク本部オープンクラウド開発部） 14：05～14：50 基調講演Ⅱ 「実空間透視ケータイ ～ケータイが実空間を理解する～」 小林亜令（KDDI 研究所特別研究員） 15：00～15：45 基調講演Ⅲ 「リアルとバーチャルが融合する『プラトニックチェーン』の世界」 渡辺浩弐（作家、GTV 代表取締役） 16：00～17：30 パネル・ディスカッション パネリスト 吉井英樹（ソフトバンクテレコム ネットワーク本部オープンクラウド開発部） 小林亜令（KDDI 研究所特別研究員） 渡辺浩弐（作家、GTV 代表取締役） 佐藤一夫（NTT ドコモ モバイルデザイン推進室） 巽 孝之（慶應義塾大学文学部教授） コーディネーター 富田英典（関西大学社会学部教授） 17：30～17：40 閉会あいさつ（実行委員長） 18：00～20：00 懇親会（パパミラノ サピアタワー店）
参 加 費	無料 懇親会費： 3,000 円
申込方法	forum@jotsugakkai.or.jp 宛にメールもしくは FAX（03-5405-3696）で、連絡先（住所、氏名、所属、メールアドレス）を明記の上、タイトルを「フォーラム参加申込」としてお申込みください。懇親会も事前の申込みが必要です。 （申込〆切 11/19 まで。定員となり次第締め切らせていただきます。）
受 付	会場受付は、サピアタワー3 階のオフィスロビーとなります。
問合せ先	情報通信学会事務局 TEL 03-5405-1150 FAX 03-5405-3696 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-22-1 秀和第 2 芝公園 3 丁目ビル 3 F
主 催	財団法人 情報通信学会
詳細 URL	http://www.jotsugakkai.or.jp/operation/forum/forum.html

開催主旨

近年、携帯電話をめぐってAR技術が関心を集めている。「セカイカメラ」(ソフトバンク iPhone)や「実空間透視ケータイ」(KDDI 研究所)などは、携帯電話でリアル空間にバーチャル情報を重ね合わせることを可能にする。このような携帯電話を使ったモバイルAR技術の発展と普及は、今後の携帯電話の姿を考える上で重要であり、同時に情報通信社会の姿を大きく変える可能性も秘めている。

これまではリアルとバーチャルの融合は一定の場所に限定されていた。それに対して、携帯電話を利用したモバイルARはあらゆる場所でリアルとバーチャルの融合を発生させることができる。このようなモバイルARは、これまでの携帯電話からのネット利用とどこが異なるのか、また、今後どのような新しい携帯電話サービスやモバイル・マーケットを生み出す可能性を秘めているのか、そして、私たちの社会生活にどのような変化が生まれるのかについて考えたい。

(基調講演)

まず初めに吉井英樹氏(ソフトバンクテレコム)がiPhoneのアプリとして提供される「セカイカメラ」を使った京都市における観光情報提供実験について基調講演する。「セカイカメラ」の「エアタグ」と呼ばれる新しい技術は、サービス開始前から多くのメディアで紹介され非常に多くの関心を集めた。「エアタグ」を利用すれば空間に文字情報や画像情報などを貼り付けることができる。実際には見えないが、携帯電話のカメラをかざすと実空間に浮かんだ「エアタグ」が液晶画面に表示される。この技術は今後様々な分野で利用されると期待されている。

次に、小林亜令氏(KDDI 研究所)が「実空間透視ケータイ」について基調講演する。見えないタグが携帯電話で見える「セカイカメラ」に対して、「実空間透視ケータイ」では目の前の壁が消える。このサービスでは、自分の位置を正確に把握し、たとえ目の前が壁であってもその向こう側の実空間情報を瞬時に携帯電話の液晶画面に表示するのである。この技術を利用した「地球アルバム」では携帯電話で撮影した写真を地図上に足跡のようにマッピングすることまでできる。

近年の様々な技術革新は小説やアニメの中にも描かれてきた。技術がSFに近づきつつある今日、近未来の情報通信社会を描くSFのなかで携帯電話はどのように取り上げられているのだろうか。『プラトニックチェーン』(エンターブレイン)、web 連載小説『晴れときどき女子高生プラトニックチェーン』(j-BOOKS)などの作品で、仮想世界にバーチャル落書ができる専用スプレーやそれを見る「ユメガネ」、日本中に設置された監視カメラの映像を瞬時に検索してくれる携帯電話サービス、それらを駆使して都市伝説に迫る女子高生の姿を描き出し、近未来のモバイルAR社会を取り上げている作家の渡辺浩弐氏が、作品の中に描かれるリアルとバーチャルが融合する世界について基調講演する。

(パネル・ディスカッション)

情報大航海プロジェクトの中で「空気の読めるケータイ」の開発を進める佐藤一夫氏(NTTドコモ モバイルデザイン推進室)、『サイバーパンク・アメリカ』(勁草書房)などの著書で著名なSF批評家・アメリカ文学者の巽孝之氏(慶應義塾大学教授)に登壇頂き、基調講演者とともに議論を深める。モバイルAR技術は今後大きなビジネス展開をする可能性を秘めている。それはどのような分野でどのような形で進むのか。リアルとバーチャルの融合は携帯電話をどのように変えるのか。そして、それらは今後の情報通信社会や現代人の生活にいかなる影響を与えることになるのかなどについて議論したい。

(詳細 URL : <http://www.jotsugakkai.or.jp/operation/forum/forum.html>)